

IFAT 2026 ファイナルレポート

国際上下水処理・廃棄物処理・再資源化技術専門見本市
2026年5月4日～7日

2026年5月7日

IFAT Munich 2026: 環境技術の世界的基幹産業化を牽引

Summary

- 160カ国・地域から約14万2,000人が来場
- 60カ国・地域から、過去最多の約3,400社が出展
- 循環型経済の実現に向けた2045年までの総付加価値倍増の見通しを提示



Facts & Data

会期	2026年5月4日(月)～7日(金) 9時～18時 ※最終日のみ16時まで
会場	メッセ・ミュンヘン
主催	メッセ・ミュンヘン(Messe München GmbH)
規模	300,000 m ² (2024年:300,000 m ²)
出展企業	60カ国から3,400社(2024年度:61カ国から3,211社)
来場者総数	160カ国から142,000人(2024年度:170カ国から142,000人)
主な出展品	水抽出技術、上水・下水処理、配水・下水管、海岸保全、治水(洪水防止)、廃棄物処理、リサイクル、廃棄物発電、道路清掃・維持、冬期道路サービス、工場跡地汚染除去、土壌処理、排ガス洗浄、空気抽出技術、防音、測定・制御・ラボ技術、サービス、学術研究・リサーチ など
出展日本企業	アムコン(株)、(株)有沢製作所、(株)いけうち、(株)石垣、(株)EKOVIA、(株)荏原製作所、(株)クボタ、(株)研電社、コマツ産機(株)、(株)島津製作所、新明和工業(株)、(株)ソルエース、(株)タンスク、(株)鶴見製作所、(株)テクノ高槻、東レ(株)、(株)ニクニ、ニデックドライブテクノロジー(株)、日東工器(株)、フジクリーン工業(株)、(株)堀場製作所、三菱ケミカル(株)、横浜ゴム(株) 他
専用URL	www.ifat.de (英語/ドイツ語)

1966年の創設以来、環境技術産業の世界的な交流の場として60周年を迎えたIFAT Munichは、世界有数の見本市として記録的な規模で開催された。2026年5月4日から7日まで開催された本見本市には、約3,400社が出展し、約14万2,000人が来場した。

約60カ国・地域から参加した企業が、30万平方メートルにわたる会場で、水、リサイクル、循環型経済に向けた革新的ソリューションを紹介し、世界が直面する喫緊の課題に対する解決策を提示した。

IFAT Munichは、60年にわたって革新と発想の象徴であり続けてきた。しかし、この60年の歴史の中で、環境技術の戦略的重要性が今日ほど明確に認識された時期はない。サプライチェーンの脆弱化や地政学的緊張が高まる中、環境技術はレジリエンスと自律性を高めるための解決策を提供している。



メッセ・ミュンヘン CEO のシュテファン・ルンメルは、「IFAT ミュンヘン 2026 への出展数が過去最多になったことは、循環型経済や水管理がシステムの極めて重要であり、次世代の世界的基幹産業であることを明確に示している。ゆえに、IFAT Munich のプラットフォームとしての意義はこれまで以上に大きい。本見本市は、重要な知識移転を可能とし、業界が政策立案者と対話し、将来に向けた適切な方向性を定めるために必要な場を提供している」と締めくくっている。

産業界と政策決定者の交流プラットフォーム

今回は、ドイツの各州大臣や各国の閣僚級代表団に加え、欧州委員会の Environment, Water Resilience and Competitive Circular Economy 担当委員 Jessika Roswall 氏も来場し、水、リサイクル、循環型経済に関する先進的ソリューションを自ら視察した。

また、ドイツ連邦環境大臣 Carsten Schneider 氏は、環境技術が主権、安全保障、そして繁栄に不可欠であると強調し、「IFAT は、この重要なテーマに関する中核的なプラットフォームである。ここは、企業、政策決定者、自治体、業界団体が連携して、課題への取り組みを調整することができる場である」と述べている。

IFAT Munich 諮問委員会議長の Johannes F. Kirchhoff 氏は、循環型かつ資源効率率の高い経済への移行は、安定性、原材料のレジリエンス、成長、そして競争力の前提条件であると述べ、「IFAT Munich 2026 は、この変革が実践において、解決策志向で、分野横断的に、そしてグローバルに連携しながら、いかにして実現し得るのかを、見事に示している」と付け加えた。

循環型経済に関する調査が、その経済的潜在力を明らかにする

ドイツ産業連盟(BDI)の委託を受けてポストン・コンサルティング・グループが実施した調査は、循環型経済が有する大きな経済的潜在力を浮き彫りにしている。この調査は IFAT Munich の支援を受け、本見本市の場で発表された。



調査結果によれば、ドイツにおける循環型経済の総付加価値は、現在の600億ユーロから、2045年までに1,250億ユーロへと倍増以上に拡大する見通しである。しかもこれは、既存の産業構造と価値創造構造の枠組みの中で達成し得るものである。さらに、追加的な累積価値創出は、2045年までに最大8,800億ユーロに達する可能性があり、また、リサイクルと再利用によって、戦略的原材料の輸入量の20~40%が、

2045年までに代替され得るとされている。

資源安全保障を高めるクローズド・マテリアル・サイクル

IFAT Munich 2026 は、循環型経済が持つ地政学的・経済的意義によって大きく特徴づけられている。焦点となったのは、資源の効率的利用、クローズド・マテリアル・サイクルの確立、そして一次原材料への依存度の低減である。

Remondis 社の取締役 Thomas Conzendorf 氏は、「IFAT は、ドイツが循環型経済における世界的リーダーとしての地位を守るだけでなく、さらに拡大していく力を備えていることを示している。実際に、出展者数は新型コロナウイルス感染症のパンデミック以前を上回っており、私たちはまさに将来性ある産業に携わっていることになる。それは、私たち全員が自信と楽観をもって将来を見据える励みとなるであろう」と述べている。

レジリエントな水インフラが最優先課題に

パイプラインおよび水供給システムのレジリエンスは、現代における主要な課題の一つでもある。求められている対応は、物理的な破壊工作やサイバー攻撃といったインフラへの標的型攻撃に対する実効的な防護策であると同時に、豪雨、洪水、猛暑、水不足といった事態に備えたレジリエントなソリューションである。

Huber SE 社の Chief Technology Officer Rainer Köhler 氏は、「IFAT Munich 2026 は、将来を見据えた重要テーマの交流と更なる発展に向けた世界有数の見本市として、その価値を改めて印象的に示している」と語り、さらに、「上下水道分野、そして廃棄物管理、リサイクルといった産業は、循環型経済と気候変動への耐性を持続的に強化する上で重要な役割を果たしている。水、エネルギー、環境、そして気候という要素は、現代における最も喫緊の課題であり、まさにその点において IFAT は重要な推進力となっている」と述べている。

60年にわたる革新、交流、そして成長

現在のエネルギー危機や地政学的紛争にもかかわらず、出展者および来場者に占める国外比率は、依然として 50% を超える高い水準を維持している。今回、出展者数においてドイツに次ぐ上位 3 カ国は、順に、イタリア、中国、オランダであった。

IFAT Munich のプロジェクトマネージャー

Philipp Eisenmann は、「創設 60 周年を迎えた今年、IFAT Munich は、その国際的地位の高さを改めて印象づけただけでなく、短縮された開催期間にもかかわらず、来場者および出展者の双方において過去最高水準の成果と高い実効性を示した」と述べ、さらに続けて、「多くの産業分野で停滞傾向が見られるのとは対照的に、環境技術という重要な成長市場を対象とする国際見本市 IFAT Munich は、60 年にわたってその中心的なプラットフォームとしての役割を果たしてきている」と締めくくった。



次回の IFAT は 2028 年 5 月 29 日から 6 月 1 日にかけて、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページまで：www.ifat.de

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語/ドイツ語)